

第1回東海市行政改革推進委員会 会議録

議 題 東海市行政改革大綱推進計画の令和6年度（2024年度）進行状況について

日 時 令和7年（2025年）6月4日（水）午後2時から午後3時30分まで

会 場 東海市役所302会議室

出席者 委員：北野達也（委員長）、深谷佳充、木下俊春、久野三賀、松田剛、
小野久仁陸、佐々木雅敏、松下千夏
事務局：成田企画部長、中島企画政策課長、名和統括主任、浅枝主事補

欠席者 加藤龍子（副委員長）、市原剛次

公開の可否 公開

傍聴者数 なし

（内 容）

- 1 開会
- 2 東海市の行政改革について
- 3 議題

- (1) 東海市行政改革大綱推進計画の令和6年度（2024年度）進行状況について
推進項目に関する主な質疑等は以下のとおり

松田委員： 「在宅勤務等の柔軟な働き方に関する制度の導入」について、在宅勤務の実施率を実績として取り上げているが、時差出勤の状況はどうか。

事務局： 対象者534人に対し実施した職員は61人であり、実施率は11.4%であった。

松下委員： フレックス制度は保育士も対象として実施するのか。

事務局： 事前に各保育園と実施可能かどうか調整を行った上で実施することとした。

松下委員： 週休3日制になると保育士の勤務が大変になるのでは。

事務局： 現在いる人員のなかで、勤務に支障のない範囲で実施する。今後保育士の人員確保及び継続的な勤務のために、柔軟な働き方ができないか各保育園長

と制度について確認を行った。7月から12月までの試行実施より、導入効果を検証していく。

小野委員： 在宅勤務の最終目標は設定しているか。

事務局： 窓口業務等在宅勤務を利用しにくい課も存在するため、目標を明確にしていない。職員の働き方の選択肢を増やすことも目的としている。

小野委員： 「消防団の充実強化」について、現在の団員充足率は他の自治体と比較して高いのか。

事務局： 他の自治体と比較して低い水準ではない。しかし、本市の令和4年度の充足率が94%であったことと比較し、入団者数は減少傾向にある。

小野委員： 時間の確保が困難という理由で団員が減少傾向になっていると考えられるが、消防団の存在を知らない人も多数いる。現在取り組んでいるPRだけでなく、団員の抱える悩みや心配事についてアンケート調査を行う等、団員の減少となる原因を洗い出すことで、充足率の向上につながると考える。

事務局： 消防団の各分団長間での議論等は定期的に行っている。また、消防操法大会の内容をより実践的な内容に見直したように、団員の意見を取り入れながら引き続き活動の改善に努める。

久野委員： 女性の消防団はあるか。

事務局： 本市の地域全体の組織として、女性消防団が1つ存在する。現在11名が活動している。

委員長： 人口が減少していく中、団員の災害対策能力向上だけでなく、自治能力向上のために、住民が災害対策をしていく取り組みも重要になる。

深谷委員： 消防団員の役割及び充足させることの利点は何か。

事務局： 火災が起こった際は交通整理、場合によっては放水を行う等、主に災害の後方支援を行う。災害の規模によっては消防署職員のみでは人員が不足することもあり、団員の力が必要になるため充足は必要と考えている。今後は風水害などより実践的な訓練や資機材の充実により、様々な災害時に迅速に対応できるようにしていく。

木下委員： 消防団は、入団することで機材に触れることや訓練を通して災害時の基

礎的な知識が身につく、災害対応を援助することができるので、必要な組織であると考えます。

深谷委員： 令和6年度の消防団の出動件数及び運営費は。

事務局： 令和6年度に火事発生により出動した件数は17件である。また、令和6年度予算で消防団運営費として2,600万円を計上している。

佐々木委員： 「職員力・組織力の高い職場を構築するための各種研修の充実」で、研修とは具体的にどのようなものを実施しているのか。

事務局： 若手職員にはビジネスマナー研修、中堅職員にはキャリア形成研修やマネジメント研修といった、役職や年齢に沿った研修を実施している。公募研修についてはプレゼンテーション研修やカスタマーハラスメント研修等、自治体職員の抱える問題に沿った研修に力を入れている。

佐々木委員： 民間企業への派遣研修は新たな視点から学ぶことができるため、積極的に取り入れるといいと考える。

事務局： 民間企業への派遣研修は以前実施していたが、相互の研修目的が合わない等の課題があり、現在は行っていない。しかし、自治体の業務において新たな視点を持つことは重要と考えていることから、派遣研修の可能性について引き続き検討していく。

木下委員： 「窓口DXによる行政サービスの向上と業務の効率化」について、お悔やみ窓口を利用したが、年金手続きは別の課で対応した。マイナンバーカードを利用する等で複数の手続きを完了できるとより便利だと感じた。また、おくやみ窓口を予約するために、最低4開庁日の期間を空けなければならない。DX化を推進して、その期間を空けずに予約及び手続きができるようになると便利だと感じた。

事務局： 引き続き運用について改善を検討していく。

久野委員： 「組織の適正化」について、創造の杜交流館が5月に開館したが、利用状況はどうか。

事務局： 開館して間もないため、まだ利用人数の把握はできていない。6月に金山駅構内にある自治体PRブース「IKO→MaI（イコマイ）」でフロアマップの配布やモニターで動画放映を行い、市外の方にも幅広く周知をして

いく。また、特産品の販売も行い、本市のPRにも積極的に取り組んでいく。

委員長：創造の杜交流館の活用業績等は取りまとめるのか。

事務局：今後取りまとめて報告させていただく。

7 その他

深谷委員： 委員会はリモートにて行うことは可能か。

事務局： 推進委員会は公開制度となっており対面にて行うものとしているが、今後の課題として検討していく。

佐々木委員： 対面にて責任を持って発言をすることは必要のため、対面にて開催することを希望する。

企画政策課長より今後の予定について説明

8 閉会